

## 次号予告

### 特集 日本におけるOR—OR学会の活動—

#### ■支部における活動

OR普及のためのモチベーション教育の試み—北海道支部の支部活動より—

.....大堀隆文・木下正博(北海道科学大学), 加地太一(小樽商科大学), 西川孝二(北海道科学大学)  
近年の東北支部総括と新たな試み

.....中山 明(福島大学), 古藤 浩(東北芸術工科大学), 鈴木賢一(東北大学)

中部支部に在籍して.....金子美博(岐阜大学)

関西支部活動について.....岳 五一・小出 武(甲南大学), 吉富康成(京都府立大学)

中国・四国地方のOR活動.....宇野剛史・大橋 守(徳島大学)

九州支部の発展をめざして.....丸山幸宏(長崎大学)

#### ■本部における活動

OR学会における研究普及の取組み.....中川慶一郎((株)NTTデータ数理システム),

樫尾 博(東京ガス(株)), 野々部宏司(法政大学)

#### ■学会活動の活性化に向けて

OR座談会

## メーリングリストに登録しよう

会員の方は、本学会のメーリングリストに登録すると、学会ならびに各研究部会の主催する研究発表会・セミナー等の催し物に関する最新情報が得られます。登録方法については、<http://www.orjs.or.jp/members/mlhowto.html>をご覧ください。

## 編集後記

●毎年恒例の「データ解析コンペティション」特集、今回は「リテールマーケティングの新潮流」と題して、私たちが日常生活の中でお店を訪れ買い物をする可能性の高い業種を対象に、成果の投稿や寄稿をいただきました。対象が身近であるゆえに、成果がさまざまな意見にさらされやすいと想像しますが、その中で解析に取り組まれた参加者、また、世間が個人データの利用に敏感なご時世にもかかわらず、データの提供と成果の共有を許可された企業には、感銘を受けました。このような取り組みが当たり前になることを望みますが、現実には、数年前の某IT企業のCMが言っていた「顧客は、自分のデータは提供しないが、自分の望むものを提供してほしい」という状況が続いている部分もあります。●ところで、本誌の編集委員会と事務局は、昨年8月末に、

機関誌記事のひな形を改訂しました。現在のひな形は、学会ウェブサイトの「機関誌」→「投稿のお勧め・投稿規程」ページの「サンプル」というリンクから入手できます。今回の特集には合わなかったかもしれませんが、執筆される方のご負担の軽減になれば幸いです。もちろん、現在の形が最適というわけではありませんので、ご執筆の折にでもご意見などをいただけましたら、改善の機会を探ってまいります。

●本号が皆様のお手元に届くころを想像してみましたが、近年は天候を予想するのも難しくなりました。天候によって衣料品や食料などが売れる・売れないという報道を見聞きすることも多いです。商品の売上予測をするつもりが天候の予測が主になっていた、なんて発表がでてくる日があるかもしれません。(佐藤圭介)

## オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

委員長 猿渡 康文(筑波大学)  
特集担当編集委員 生田目 崇(中央大学)  
委員 池辺 淑子(東京理科大学), 石井 儀光(国立研究開発法人建築研究所), 鶴飼 孝盛(東海大学), 小林 隆史(東京工業大学), 坂本 英夫(株式会社東芝), 佐久間 大(防衛大学校), 笹谷 俊徳(東京ガス株式会社), 佐藤 圭介(公益財団法人鉄道総合技術研究所), 高野 祐一(専修大学), 中原 孝信(専修大学), 生田目 崇(中央大学), 蓮池 隆(早稲田大学), 原田 耕平(株式会社NTTデータ数理システム), 吉住 貴幸(日本アイ・ピー・エム株式会社 東京基礎研究所)

本誌に掲載された記事についての著作権は、公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

## オペレーションズ・リサーチ

平成28年2月号 第61巻 第2号 通巻662号

代表者 大宮 英明

発行所 公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会

東京都千代田区岩本町1-13-5 サン・チカビル7F

電話 03-3851-6100 FAX 03-3851-6055 〒101-0032

<http://www.osrj.or.jp/>

編集人 猿渡 康文

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-15-5 〒151-0051

・本誌購読のお申込みは、日本オペレーションズ・リサーチ学会へ。

・本誌への広告のお申込みは、明報社(Tel 03-3546-1337)へ。